

## 北海道

## みなとまち紀行

根室編①

第7号

## ■根室編①

桜前線が北上し北海道の東端に達する時期を待って、根室を訪れました。この地の開花をもって今年の桜前線は終わります。根室半島は、海食台が隆起して陸上に現れた「隆起海食台」が広がる半島です。また、その沖に点在する色丹島や歯舞群島は根室半島の延長が陥没してできた離れ島で、緩やかな丘陵地と段丘からなっています。今回の旅は釧路からレンタカーで根室に入り、根室市役所に近い「喫茶どりあん」というお店で根室のソウルフードといわれるエスカロップをいただいてから、半島を跨いで太平洋側の花咲港の近くにある「根室市歴史と自然の資料館」で学芸主査の猪熊樹人さんにお会いして資料館を見学し、花咲灯台の下の海岸に露出する国の天然記念物に指定されている「根室車石」に立ち寄ります。そこからもと来た道に戻り、オホーツク海側の根室港を望む高台にある「金刀比羅神社」に参詣してから、明治以来、地元で愛される美味しい日本酒を造り続けている「碓氷勝三郎商店」に寄り、「回転寿司 根室花まる 根室店」で夕食をとる行程です。

## 【喫茶どりあんのエスカロップ】

海上に長く伸びる知床連峰を眺めながらならかな丘陵を走る国道を進み、根室市役所の建物を左に見て坂を下ると、その中ほどに深緑色の落ち着いた雰囲気のお店「喫茶どりあん」（地図①）があります。大きな白枠の窓の前に並ぶ赤い小さな折りたたみの椅子がさり気なくお店に誘うようです。お店の中はゆったりとしていて食事を楽しむことができます。早速、お目当てのエスカロップを注文しました。名前の由来は「肉の薄切り」、イタ



根室のソウルフード「エスカロップ」(上)が食べられる、赤い折りたたみ椅子が目印の「喫茶どりあん」(右)



リア料理の名前から付けられたという説もあるようです（根室市観光協会）。タケノコ入りのバターライスの上に、デミグラスソースをかけたトンカツがのるシンプルな料理ですが、見た目よりさっぱりとした旨味がありました。

## 【根室市歴史と自然の資料館】

「喫茶どりあん」から車で丘陵を超えて太平洋側の花咲地区へ向かい、20分ほどで「根室市歴史と自然の資料館」（地図②）に到着しました。昭和



根室市歴史と自然の資料館



地層剥ぎ取り図



〈縄文文化の出土品〉  
初田牛 20 遺跡出土の土偶と  
黒曜石の原石や石器など

が何か所も見られます。右側の剥ぎ取り図の中ほどにある黄色い地層は、摩周湖の噴火で振り積もった火山灰で、その上に縄文時代の地層が堆積しています。

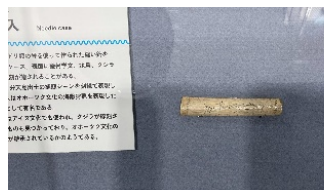
根室市では約 8,000 年前からの縄文時代の居住跡が見つかっており、土器や石鏃(石の矢じり)、石製玉などが出土しています。特に目を引くのは弁天島や温根元などで発見された、クジラの骨や歯牙でできたオホーツク文化の出土品です。紀元 5



〈オホーツク文化の出土品〉  
上段が弁天島遺跡から出土した  
掘り具、下段は骨鏃、鉋先、ヤス



〈オホーツク文化の出土品〉  
上段が動物意匠骨器、下段が鉋先(上)、アホウドリの骨に捕鯨の様子  
が線刻されている針入(下)



入 針入(下)

7 年 (1942) に大湊海軍通信隊根室分遣所として建てられたレンガ造りの奥行きのある平屋建ての建物です。玄関を入り、両側に資料が並ぶ廊下を歩いて展示室に入りました。案内をいただいた学芸主査の猪熊さんは考古学がご専門とのことですが、古代からの根室の自然と歴史をわかりやすく説明していただきました。

まず目を引くのは、展示室の壁に貼られた2枚の地層剥ぎ取り図。長い地球の歴史を刻む地層には、今注目されている津波の痕跡



根室市内チャシ跡分布図(上)とチャルコロフィナチャシ跡(下)(根室市パンフレットより転載)



チャルコロフィナチャシ跡

～6 世紀にサハリン南部から渡来し、オホーツク地域に広がった文化です。この文化はやがて擦文文化に吸収融合され、13 世紀にはアイヌ文化が全道に広がります。アイヌ民族の砦、祭祀の場、見張り場などに使われた「チャシ」は北海道内で 500 カ所ほど確認されており、根室市内にある 32 カ所のチャシ跡のうち、24 カ所が国指定史跡「根室半島チャシ跡群」に登録されています。

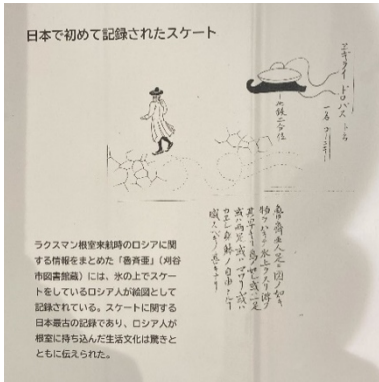
1700 年代後半になるとロシア人が通商を求めて根室を訪れます。寛政 4 年 (1792) には、漂流した伊勢の船頭大黒屋光太夫ら 3 名の日本人を伴い、遣日使節アダム・ラクスマンの一行が 2 本のマストと横帆を有するブリガンティン船「エカテリーナ号」に乗り、通商を求めてネモロ(根室)に寄航し越冬します。その間、ロシアの乗組員と松前藩士たちは日本語とロシア語を相互に学習し合い、また地図を貸借して写し合うなどして親密に往来しました。その時にラクスマン一行が測量した地図が展示されています。



帆船エカテリーナ号の絵図



ラクスマン一行が測量した厚岸港(左)と根室港(右)



日本側から見た日露国境標石

ラクスマンが根室に来航した時の情報をまとめた「魯齊垂(ろしあ)」(刈谷市図書館蔵)に記されたスケートの様子。「図のごとき物をはいて水上をすり遊ぶ。その早いことは鳥のようだ」との説明文が添えられている

また、この時に日本人がスケートを見たという初めての記録が残っています。この一行の先導役は、その13年前に通商を求めて厚岸において松前藩士と会見したイルクーツクの商人デイミトリー・シャバーリンで、その時の会見の様子を描いた絵(ゲッティンゲン大学図書館所蔵)がパネルで展示されています。さらに時代が下って明治に入り、ロシアの南下政策に危機感を抱いた日本はロシアに宣戦布告し、日露戦争に勝利して南樺太を領有します。その時に北緯50度上に設置された日露国境標石が展示されています。

### 【根室車石】

次に、世界的にも珍しいという「根室車石」を見るために花咲灯台に向かいました(地図③)。灯台で車を降り、海に向かう細い道をたどり、波しぶきで濡れそうな場所まで降りたところで切り立った崖を見上げると、玄武岩特有の節理が半円形に広がる直径6mほどの岩が迫るように立っていました。



花咲灯台(上)と案内標識(下)



地球のドラマを感じさせる「根室車石」。熱いドロドロの溶岩が冷えて固まったのは、6,000万年前ころ、恐竜が絶滅した頃といわれる。アニメ「ゴールデンカムイ」の舞台にもなり、聖地巡礼の来訪者も増加中



### 【金刀比羅神社】



金刀比羅神社の大鳥居。奥の門を入ると右側に本殿がある

弁天島が波を遮る静穏な海面に巡視船が停泊する根室港。ラクスマン一行のエカテリーナ号もここに停泊しました。そのすぐ近くの木々に囲まれた高台に、択捉島の漁場を開き北洋漁業の基礎を築いた一代の豪商・高田屋嘉兵衛が、文化3年(1806)に創祀した金刀比羅神社が建っています(地図④)。現在の場所には明治14年(1881)に遷座しました。

まず本殿にお参りしてから海側の階段を降りると、台座に立って北の彼方を見つめる高田屋嘉兵衛の像があります。この像は、神社の創祀180年記念祭にあたって、嘉兵衛が航路を開発し産業を興し民生の安定に尽くし、さらに松前藩に捕囚されたゴロヴニン大尉の解放に貢献して日露の修好に尽くした偉大な功労を讃えて建立されたもので、これを標として日ソの修好と北方領土の返還を期すと正面右の石碑に刻まれています。



金刀比羅神社拝殿



高田屋嘉兵衛像とその偉業を讃える石碑(写真右下)



金刀比羅神社境内より弁天島を望む

そこから弁天島と背後に広がる海を眺めながら境内を散策しました。弁天島では、オホーツク文化にまつわる記念すべき発見がありました。明治8年（1875）樺太・千島交換条約の締結により、北千島に住む千島アイヌとアレウト人（ロシアの商人によってアリューシャン列島から移住）が日本とロシアのいずれに帰属するかという問題が起きた時、その決定のために開拓使に派遣された一行の中に、当時、工部大学校の鉱山学・地質学を担当していた英国人ジョン・ミルンがいました。彼は明治11年（1878）、北千島に向かう前に弁天島で貝塚を発見し、のちに「オホーツク文化」と呼ばれる土器や石鏃などを初めて採取したのです。

散策の後は社務所に併設されている「お祭り資料館」に伺いました。北海道3大祭りの一つで、毎

年8月初旬に3日間にわたって行われる例大祭を紹介する資料館です。館内の中央には重さ1.5tの絢爛豪華な御神輿が置かれ、奥には例大祭でまとう衣服や面などの道具などが陳列されています。例大祭ではこの御神輿を「金刀比羅神社みこし会」の大勢の若者たちが担ぎ、その後ろに市内4つの祭典区の趣向を凝らした山車や笛太鼓・子供神楽などが続きます。その行列にはおよそ1,100人の市民が参加し、行列の延長は1kmに及ぶといえます。館内の大画面には例大祭の熱気あふれる様子がビデオで放映され、2階吹き抜けの壁には勇壮な祭りの様子をを紹介する写真パネル・ポスターが展示されています。今年の例大祭は8月9日から11日の3日間です。この祭りを盛り上げるために根室に帰ってくる人たちも多いといえます。まさに根室市民の魂の祭典です。令和2年（2020）には国の無形民俗文化財の指定を受けました。



大例祭の様子を伝える社務所の掲示板



絢爛豪華な大例祭の御神輿



大例祭の衣装

## 【碓氷勝三郎商店】

碓氷勝三郎は、越後国（新潟県）三島郡の裕福な商家に生まれましたが、父が事業に失敗したため、新潟の海産問屋に奉公したのち、明治8年（1875）に函館に渡り、翌年根室に移住し雑貨商を始めました。そして明治20年（1887）、蓄えた資産をもとに根室の弥生町（現・<sup>やさかえ</sup>弥栄町）で酒造業を始めます。当時、寒さの厳しい根室では漁民や労働者の酒の消費が驚くほど多かったのですが、灘や大阪などから移入するために価格が高く、人々の大きな負担になっていたといえます。勝三郎は地元で酒を造り、安く提供することを思い立ちます。

こうして日本最東端、根室で最初の造り酒屋として「碓氷勝三郎商店」を開業します（地図⑤）。当初は「清泉」「志ら梅」「北龍」の銘柄で販売していましたが、昭和17年（1942）に初代・勝三郎への敬意と戦勝祈願を込めて「北の勝」に統一しました。流氷が流れ着く寒冷な気候と良質な水によって、「北の勝」は地元の人々から圧倒的な支持を得てきました。なかでも昭和59年（1984）年に販売を始めた「<sup>しば</sup>搾りたて」は年間1万7,000本しか造らない冬季限定酒で、例年1月の発売日には根室市内の酒販店やスーパーに行列ができるということです。初代が建てた煉瓦蔵や土蔵は今も健在です。



碓氷勝三郎商店の蔵。醸造所は一般公開しておらず、販売もしていない

## 【回転寿司 根室花まる 根室店】



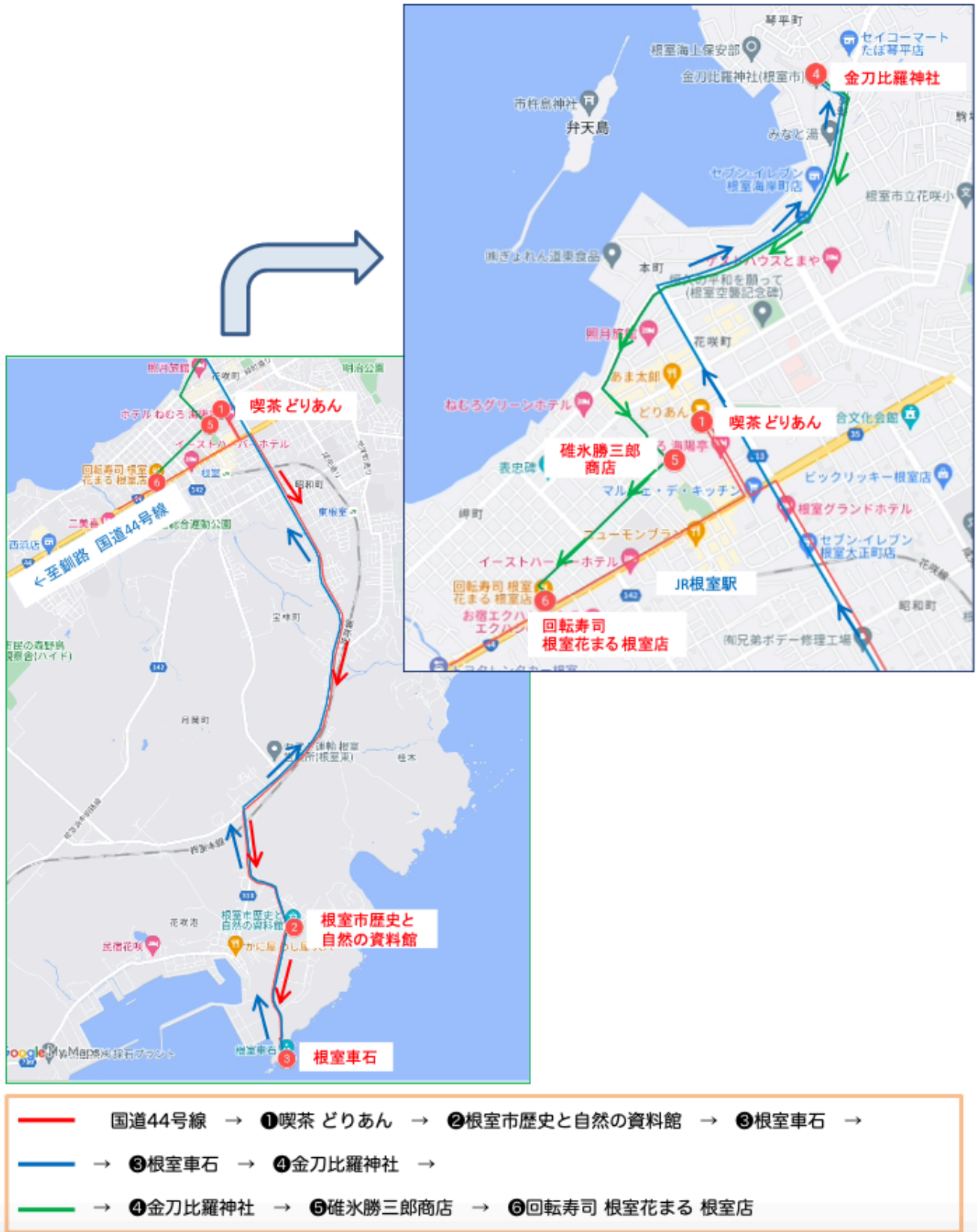
回転寿司 根室花まるの  
発祥の地の根室店(右)  
新鮮で大きなネタのお寿  
司に「北の勝」を添えて  
(上)



最後は、「回転寿司 根室花まる 根室店」へ向かいました（地図⑥）。あいにくの曇り空で気温も5℃前後の肌寒い日でしたが、午後5時を回ると瞬く間に店は満員に。女性板前のきびきびした動作を眺めながら新鮮なネタの寿司を堪能し、「北の勝」をいただきました。

（関口信一郎 記）

【今回の巡回ルート】



## 【今回巡った箇所のミニ情報】

### 地図①

#### 喫茶どりあん

根室市常盤町2丁目9番地

電話 0153-24-3403

定休 火曜（祝、祭日は営業）

営業時間 10:00～20:00

### 地図②

#### 根室市歴史と自然の資料館

根室市常花咲港209番地

電話 0153-25-3661

定休 月曜、祝日（月曜が祝日の場合、翌日休館）、年末年始

営業時間 9:30～16:30

入館無料

### 地図③

#### 根室車石

根室市花咲港

※花咲灯台のすぐ下に放射状節理構造の玄武岩である車石が多数並ぶ。直径6mの車石もあり、国の天然記念物に指定されている。

### 地図④

#### 金刀比羅神社

根室市琴平町1丁目4番地

電話 0153-23-4458

※社務所、お祭り資料館は入館無料で8:30～17:00まで開館。例大祭の資料や御神輿が展示され、オリジナルのお守りやおみくじも頒布。

### 地図⑤

#### 碓氷勝三郎商店

根室市常盤町1丁目6番地

電話 0153-23-2010

※事務所、醸造所ともに一般公開しておらず、商品販売もない。「北の勝」をご希望の方は根室市内ほか酒販店でご購入を。

### 地図⑥

#### 回転寿司 根室花まる 根室店

根室市花園町9丁目35番地

電話 0153-24-1444

定休 月ごと変更（HP参照）

営業時間 11:00～21:00

予約不可

### <連絡先>

NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

札幌市北区北11条西2丁目2-17 セントラル札幌北ビル5階

e-mail アドレス mail@minatobunka-npo.info

ホームページ <https://minatobunka-npo.info>